

議事録

年 月 日	令和6年5月2日（木）
時 刻	午後2時～午後3時40分
場 所	市役所1階 多目的ホール
内 容	令和6年度 第1回 伊那市新産業技術推進協議会
出 席 者	委 員 会場出席 15人、オンライン出席 10人、欠席 9人 アドバイザー 会場出席 3人、オンライン出席 3人 事務局 企画部 飯島智 部長、企画政策課 織井邦明 課長、 地域創造課 田中久 課長9 市民生活部 柴公人 部長、生活環境課 金子勝勇 課長、 保健福祉部 村松義隆 部長、社会福祉課 城倉哲哉 課長、 子育て支援課 宮下威暁 課長、健康推進課 北原静香 課長、 福祉相談課 網野喜彦 課長、 商工観光部 重盛巧 部長、商工振興課 柴正人 課長 （課長以上記載）
合 せ 概 要	1 開会（織井企画政策課長） 2 交代委員紹介（織井企画政策課長） 3 白鳥市長挨拶 ・窓の外に見える美しい緑を、最近「伊那グリーン」と表現している。是非流行らせてほしい。 ・平成28年に設置し、委員の皆様には様々な協議をいただきながら進めてきた本協議会の取り組みは、全国から注目され、デジタル田園都市国家構想のモデルとしても取り上げられている。 ・今回、現委員での最後の協議会となるが、委員の皆様には、お忙しい中それぞれの専門的な立場から、伊那市の新産業技術推進に向けご尽力いただいたことに対し、厚く感謝申し上げる。 4 栗林会長挨拶 ・本協議会は、平成28年から4期8年にわたり活動してきた。この間傘下10部会で伊那市の主要な施策を担い、ますます重要性を増している。 ・今回の協議会では、令和5年度の各部会の活動について報告し、今後の活動について委員の皆様、アドバイザーの皆様からご意見、ご助言をいただきたい。 ・各部会の取り組みについては、できるだけ現場に出向き活動状況を確認して報告書をまとめた。概ね満足できる結果であった。 ・これまでの取り組みが定着し、更なる高みへ向かう好循環が生まれていると感じている。 ・第5期も、より高い目標に向かって皆様の引き続きのご支援をお願いします。 5 会議事項 （1）令和5年度の活動報告について （全体：事務局より説明）

(各部会：各部長、又は事務局より説明)

<委員>

- ・モバイルクリニックに搭載する医療機器について、将来的には脳血腫の診断ができる機器の搭載を検討してほしい。
- ・パワーアシストスーツについては、どう効果を判定するかが課題と考える。医療機関受診回数の減、医療費削減という KPI は難しいと思うので、例えば参加者に対するアンケートで「どんな効果を自覚できたか」、「体重の増減」、「血圧の推移」等を回答いただき、評価の指標とすることもできるのではないかと考える。

→当初国の遠隔診療のモデルは生活習慣病であったが、現在診療科が多岐にわたっている。ニーズを捉えながら、搭載医療機器の高度化を進めていきたい。

効果判定について、定量化は難しい面もあるが、KPI は数値で評価していく必要がある。将来の財政運営を踏まえたときに、医療費削減効果は新産業技術推進協議会の一つのテーマでもある。コネクテッド保健福祉部会に限らず、インテリジェント交通部会、デジタル行政部会でも、「市民の移動を容易にする」、「外出機会を増やす」等健康増進にもつながる取り組みをおこなっている。さらに KPI 設定について検討していく。(事務局)

<委員>

- ・個別の事業について、柔軟に市民ニーズを把握して取り組みを行っていることが、成果を出している要因であると思う。
- ・モバイル市役所は目標未達であるが、市役所のデジタルファーストの事業を充実していくとデジタル市役所の事業をカバーできるのが未達の原因かと思う。一方、モバイル公民館は「市民との密接なコミュニケーション」、モバイルクリニックは「医療機器」のようにデータオンリーではできない事業である。モバイル市役所、モバイル公民館、モバイルクリニック、それぞれの実情を冷静に検証しフォローしていったほしい。

→モバイル市役所の運用については、証明書発行の際本人確認できる権限のある職員が乗車しなければならないなどの課題がある。また、デジタル行政を進めることによって、モバイル市役所の目的自体も薄まってくる。政策間連携をしながら取り組みを進めていく。(事務局)

<委員>

- ・「無人 VTOL 機による物資輸送プラットフォーム構築事業」は、最先端の取り組みであることをもっと PR した方がよい。実用化できると伊那市の物流・輸送の利便性に貢献する。開発する場所が少ないのが日本の課題になっており、それが国際競争力にも関わっている。3,000m 高地を有する伊那市がそこに貢献していることに市民が誇りを持ってほしい。市民の QOL 向上にも効果があるのではないか。

<委員>

- ・伊那市で「ゆうあいマーケット」を構築して以来、実装を目指して取り組む他の自治体が増えていくが、伊那市ほど実装に至っている事例は少ない。非常に誇らしい事例である。伊那市の取り組みはもっとアピールすべきである。われわれも微力ながらメディアに対して伊那市の取り組みを取り上げてもらえるよう努力していく。

<委員>

- ・伊那市の取り組みは現場と舵取りをする栗林会長の距離感が近いのが特徴である。現場主義が浸透していることが非常に効率的である。参画されている企業を通じて、この協議会の体制も普及していけば日本全体のレベルが上がるのではないか。

→伊那谷は、標高差、気候などテストベッドに適した環境にあり、国からも伊那谷をテストベッドにしてほしいという話がある。外向きのプロモーションは進んでいるが、市民向けのプロモーションも大切であり、これから取り組んでいきたい。（事務局）

（２）部会の改編について

（スマート工業部会の自走化、レジリエントまちづくり部会の設置について事務局より説明）
→部会の改編について協議会の承認をいただいた。

～アドバイザーからコメント～

＜アドバイザー＞

- ・河川上空を利用したドローン物流が順調に進んでおり心強い。
- ・無人 VTOL 機も着実に開発が進んでおり、ペイロードが大きく、電波の届きにくい場所でも飛行できる特徴を活かして、今後山間部の砂防堰堤工事や、災害時の物資輸送等われわれの事業でも活用できればと考えている。

＜アドバイザー代理＞

- ・VTOL、スマート林業の取組等を聞き安心感を覚えた。われわれもアンテナを高くし、地域の発展のために積極的に協力をしていきたい。

＜アドバイザー＞

- ・非常に先進的な取組みが進んでいる。
- ・伊那市が全国のモデルとなるよう、第５期の取組みにも協力していきたい。

＜アドバイザー＞

- ・伊那市の取組みは他の自治体に比べてかなり進んでいる。
- ・インテリジェント交通では、どのような道路をどのように使うか、われわれとしても関心がある。相談いただければ、積極的に調整等協力していきたい。

＜アドバイザー＞

- ・地域公共交通は非常に厳しい状況に置かれており、地域ぐるみで支えていくことが重要になっている。
- ・インテリジェント交通部会の中で、ぐるっとタクシー、市街地デジタルタクシー事業に取り組まれていることには非常に期待している。

＜アドバイザー＞

- ・総務省としては、伊那市の取組みをいろいろな自治体に横展開したい。
- ・各部会の取組みのみならず、この協議会の体制そのものも全国に展開していきたい。
- ・レジリエントまちづくり部会は、各部会を連携させることができる部会設置だと思う。
- ・総務省では、都市 OS 整備について、２分の１事業費補助を実施している。そういった施策も活用いただきながら進めていただきたい。

～全体を通して～

＜委員＞

- ・この会の素晴らしさは、伊那市民に対し、これから生きていく上で何に注目しなければならぬかを示している点だと思う。
- ・例えば、伊那市ではコロナ前の段階で遠隔教育に早くから注目していたため、コロナ禍で小中学校が休校になったとき、いち早くオンライン授業を開始できた。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・全国に先駆けて手を付けるだけでなく、国からの補助を受けるやり方が模範的な自治体であると思う。・協議会も取組み期間が長くなると課題が出てくる。部会の自走化は喜ばしいことであるが、協議会の傘下のときは皆が応援してくれるが、自走化すると狭い専門集団の中で自立してサステナブルに取り組んでいかなければならない。 |
|--|---|

6 閉会（織井企画政策課長）